



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和4年10月号 第214号

(令和4年10月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆東京のまちづくり運動の輪を広げる集い 10月20日(木) 東村山市民ステーション・サンパルネ



サンパルネでの講演会

「東京のまちづくり運動の輪を広げる集い」が、新型コロナへの万全な感染対策を実施の上、開催されました。東京都生活会議連絡協議会西村弘会長及び東京のあすを創る協会藤本龍夫事務局長からあいさつがあり、その後、講演会に移りました。講演者は、元駐チリ特命全権大使等を歴任し、現在は、大王製紙の社外取締役を務めている、平石好伸さんです。平石さんは、萩本悦久さん(立川市:玉川上水の自然保護を考える会代表者)の小学校教員時代の教え子です。講演のテーマは、「イラクのまちづくりへの支援」～日本外交の最前線に身

を置いて～です。イラク戦争(2003年3月～2011年12月)等によって疲弊したイラクの国家再建を支援するため、同国ムサンナー県サマーワ市に、陸上自衛隊宿営地とともに、「外務省サマーワ連絡事務所」が設置(2004年1月)されました。平石さんは、同事務所長としての約1か月間(2004年7月30日～同年8月31日)、地元有力者との関係の構築、現地の治安や政治状況の把握、ODA(政府開発援助)による支援の実施などに当たられました。現地の厳しい勤務環境や治安状況などについて、約2時間、お話をいただきました。32名参加。

◆東京都生活学校連絡協議会学習会 地球温暖化ストップ・次世代のために



第1回学習会(東創協事務所)

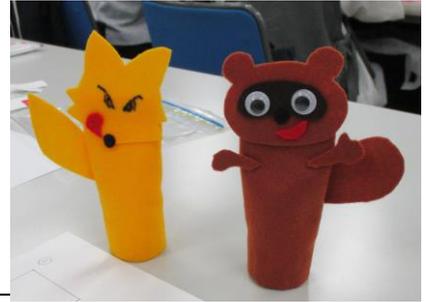
東京都生活学校連絡協議会では、今年度、温暖化の問題を取り上げることとし、まずは、温暖化の実態を知り、その阻止のための様々な取組みを理解し、その上で自分たちでできる取組みについて考えていこうと学習会が開かれました。

第1回目の学習会は10月21日に東創協の事務所で行われ、各生活学校のリーダーを中心に11名が集まりました。地球温暖化の実態について、事務局が作った資料に基づき、①なぜ温暖化を考えるのか [課題]、②本当に温暖化しているのか [現状]、③どうして温暖化するのか [分析]、④温暖化するとどうなるのか [予測]、と順に参加者の感想、意見を聞きながら進められました。

温暖化により花の開花時期と虫が動き回る時期とがズレてきている／実際に熱中症に罹ったことがある／春と秋が短くなって従来の季節感ではなくなった／北海道がびっくりするような暑さになっている、等々。このような肌感覚の温暖化の実感とともに、北極・南極やグリーンランド、シベリヤなどの極地で現に起きている海水や氷床、凍土などの融解の様子を写真資料で、あらためて再確認しました。

次回の学習会では、温暖化対策の実際を学び、一人ひとりができる対策を考えて行くという。





最近、NHKのニュースでAI音声で流されているのに出くわし、あんなに多くのアナウンサーを抱えていながら、何たることかと憤慨している。AIを駆使した自動運転車が走り始める時代ですから、人間の微妙な抑揚の話し言葉を再現するのはたやすいことなのかもしれない。しかし、そのAI音声のニュースを聞いてみればわかるのだが、新人アナの稚拙なニュース読み上げの方が、まだまだと言うか百倍良いということを…。



そんなモヤモヤを持ちつつ、特定非営利活動法人の読み聞かせネットワークヒッポの「読み聞かせボランティア スキルアップ連続講座」を見学させていただいた。絵本の読み聞かせで使う指人形の制作、日本の昔話の絵本の紹介等がその内容でした。豊饒な昔話の世界と温もりあふれるその語りには、AI音声に対するモヤモヤの正体が明らかになった。人の声には、紛れもない人肌の温もりがあり、AI音声には残念ながらそれがスッポリ欠落しているのである。連続講座は第2回目に世界の昔話の紹介、第3回では「ヒッポおはなしフェスティバル」として子どもも参加できる。また、温もりあるお話しを聞きに行きたいと、NHKのAI音声を聞きながら切に思う秋の夕暮れでした。



西原自然公園を育成する会(生活会議・西東京市)から、同公園の雑木林再生の取組を記録した冊子が送られてきましたので、少しご紹介します。

同会が中心となって管理している園内には、コナラやクヌギなどが生い茂る雑木林があり、今も武蔵野の面影が多く残されています。散歩道が整備され、森林浴や四季折々の景色を目にしなが、散歩を楽しむことができます。同会は、雑木林を形成するコナラやクヌギを、「ナラ枯れ」という病気から守り、雑木林の健全な維持管理に努めています。取組内容は、「ナラ枯れ」に侵されたコナラやクヌギの高齢木を伐採し、萌芽更新という方法で樹木の若返りを図っています。樹木の若返りを図ることが「ナラ枯れ」の予防と防止において、最良の方法とのことです。冊子は、「第1章 萌芽再更新」「第2章 萌芽その後の成長の記録」「第3章 ナラ枯れ防止の検証」としてまとめたものです。



(一口メモ) **ナラ枯れ** カビによる伝染性の萎凋病(いちようびょう、感染木が急激に枯死する病気)です。この病原菌は、カシノナガキクイムシという甲虫が媒介します。感染して枯死した樹木から健康な樹木に病原菌を運ぶ役目をしています。

▽ひとこと 前号の当欄で「梅雨がアツという間に明けた」と記しました。それは気象庁が、6月27日に関東甲信や東海、九州南部で梅雨明けしたとみられるという発表を受けたものでしたが、9月1日になって実際の梅雨明けは速報値より1か月ほど遅い7月下旬で確定したと発表したのです。そこで確定された関東甲信の梅雨明けは、7月23日です。6月27日の発表は「速報値」として出したものであり、当然修正もありますよと言いつつしているようです。これは、異例の大幅修正であり失態と言ってもおかしくない。そもそも、最近の天気予報は外すことが多いと思っているのは、私だけでしょうか。気象庁には、素晴らしい性能のスパコンが備えられ、驚くほど精細な予報を出しています。それは、気温や風速、はたまた気圧配置等々の過去の蓄積された膨大な気象データを解析して出すのでしょ。しかしながら、昨今の地球温暖化です。異常気象は平常の気象とは異なるから「異常」なのです。その異常をAI予測するのは、当然のことながら簡単ではない。AIを駆使した自動運転車は、あらゆる走行上の情報を感知して安全運転を行うのですが、想定されない異常な人や車の動きにどう対処するのか、やはり心配です。つまり、異常をも想定するのが求められるからです。予測できないから「異常」なのですが、それさえも予測できるならそれは「正常」になる?!。(竜)